

# 川崎医科大学附属病院北館棟の空調・給湯設備

竹田 憲通 株式会社竹中工務店 広島支店

**要約** 川崎医科大学附属病院は岡山県倉敷市に位置し、病床数 1,182 床の規模を有する特定機能病院である。北館棟は、救命救急外来・病棟の拡大と機能充実を目的に計画され、旧川崎リハビリテーション学院の建物を解体し、その跡地に平成 21 年 3 月に完成した。冷熱源は蒸気吸収式冷凍機を主とし、ターボ冷凍機と併用してきたが、近年の原油価格上昇を受け、ターボ冷凍機のみとしている。また、給湯にはヒートポンプチラーを導入し、既存蒸気熱源と併用とするなど冷温熱源を電気式にシフトし、高効率の機器を採用するとともに蓄熱を組み合わせることで、省エネルギーと環境負荷低減につなげている。

**キーワード** 病院、学校、設備計画、水蓄熱、空調設備、給湯設備

## 1. はじめに

川崎医科大学附属病院は倉敷市の北東部に位置し、JR 中庄駅から程近い位置にある病床数 1,182 床の規模を有する特定機能病院である。

北館棟は手狭となった救命救急外来・病棟の拡大と機能充実を目的に計画され、旧川崎リハビリテーション学院の建物を解体し、その跡地に 2009 年 3 月に完

成した。北館棟には救急部門と共に健康診断外来、リハビリテーション（理学療法・作業療法・言語療法）外来、回復期リハビリテーション病棟、川崎リハビリテーション学院が入っている。

今まで川崎医科大学の施設は冷熱源において蒸気吸収式冷凍機を主とし、ターボ冷凍機と併用してきたが、近年の原油価格上昇を受け、北館棟では電気方式とし、ターボ冷凍機のみとしている。また、給湯にもヒートポンプチラーを導入し、既存蒸気熱源と併用した。



写真 1 建物外観